

江崎グリコのルーツが見える 江崎記念館

- 見学時間 月～金 第1・3土曜日(以下時間帯の入替え制)
①10:00-11:00 ②11:30-12:30 ③13:00-14:00 ④14:30-15:30
- 休館日:第1・3以外の土曜日・日曜・祝日・夏季休暇・年末年始、その他臨時に定める日詳しくはHPにてご確認ください。

事前完全予約制

Reservation is required.
当日のご予約はお受けできません。

- インターネットにてご予約承ります



<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/ezakikinenkan/>

団体、福祉関係のお客様はHPをご確認ください。

お問合せ先 Contact Us

TEL 06-6477-8257

受付時間：平日の10:00-12:00・
14:00-16:00(休館日除く)



〒555-8502 大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号
交通 JR東海道本線 塚本駅より徒歩16分
JR東西線 御幣島駅より徒歩18分

来館した記念にスタンプを押そう!

年 月 日

全国のGlicoミュージアムのご紹介・各館事前予約制

glicopia
KOBÉ



<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/glicopia/kobe/agreement/>

glicopia
EAST
Saitama



<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/glicopia/east/agreement/>

glicopia
CHIBA



<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/glicopia/chiba/agreement/>



すこやかな毎日、
ゆたかな人生

Glico



江崎グリコのルーツが見える

江崎記念館

Glico Museum

近代化産業遺産認定

大阪市 都市景観資源登録



グリコのハート型のローラー
(1922)

食文化を通じて感動を創造する

企業ミュージアム「江崎記念館」は1972(昭和47)年3月、創立50周年記念事業の一環として社員に創業の志を伝え、社業の発展に寄与するため設立したものです。

館内には創業以来のGlicoグループのあゆみに関する資料、商品・販促品をはじめ、創業者・江崎利一ゆかりの品々を展示しています。展示品の一部は、国の近代化産業遺産に認定されています。

存在意義(パーパス)

すこやかな毎日、ゆたかな人生

ありたい会社の姿(ビジョン)

Glicoグループは人々の良質なくらしのため、高品質な素材を創意工夫することにより、「おいしさと健康」を価値として提供し続けます。

江崎グリコ株式会社

グリコの軌跡をたどる旅へ

子どもたちの健康を想う心が 創意工夫や不屈邁進の努力により 「栄養菓子グリコ」を生んだ



創業時にグリコを練ったしゃもじ(社宝)

すべてはグリコーゲンとの出会いから始まった

1919(大正8)年春、創業者・江崎利一は佐賀県有明海で、一生を左右する大きな出来事に出会いました。岸辺で漁師たちが、中国に輸出する牡蠣を大きな鍋で煮ており、煮上がると煮汁をざあーと捨てていました。それを見て、薬業新聞に「牡蠣には栄養素グリコーゲンが多量に含まれている」という記事が書かれていたのを思い出し、天啓のようにひらめくものがありました。

そこで利一は、その煮汁からグリコーゲンを抽出し、病気の治療より予防に役立てようと考え、国民の体力・健康づくりを目的として、栄養菓子グリコを創製しました。グリコーゲンを含むことからグリコと名づけたのです。ここでは、ゴールインマークの成り立ちと変遷、創業時代の工場模型、ハート型ローラーや真空釜などを展示しています。



生涯、事業への情熱を 燃やし続けた創業者の足跡

「事業奉仕即幸福 事業を道楽化し、死ぬまで働きつづけ学びつづけ息が切れたら事業の墓に眠る」の座右の銘。のとおり、創業者・江崎利一は、1980(昭和55)年2月に、満97歳(数え99歳=白寿)の天寿を全うして現役経営者で、この世を去りました。

佐賀で菓種業の長男として生まれ、グリコーゲンと出会い、そしてこの世を去るまで、全身全霊を傾けて事業を起し発展させました。その創意工夫と「食品事業を通じて社会に貢献したい」という創業の精神は、今日のGlicoグループに受け継がれています。ここでは、利一が生前に使用していた思い出の品々を展示しています。

創業者 江崎 利一

Ezaki Ri-ichi, the company's founder (1882-1980)

History of products

赤い箱に、ゴールインマーク キャッチフレーズは「一粒300メートル」

創業者・江崎利一は、商品名(グリコキャラメルではなくグリコ)、形状(ハート型)、意匠(赤い箱)、商標(ゴールインマーク)、キャッチフレーズ(一粒300メートル)を用意周到に決めたくうえで、佐賀から大阪に居を移しました。そして、1922(大正11)年2月11日三越百貨店にて「栄養菓子グリコ」の発売が開始されました。ここでは、栄養菓子グリコ、ビスコをはじめ、アーモンドチョコレート、ポッキー、ブリッツなど当社を代表する商品を紹介しています。



History of advertising

時代を先取りする広告戦略のすべて

Glicoはいつも楽しいことを考えていたい…。
数々の広告やキャンペーンは、その心をいきいきと表現し、先へ先へとわくわくする楽しさを届けてきました。
ここでは、創業時からのユニークな新聞広告、タレントを起用したテレビ広告や引換賞品などを展示しています。
なかでも、映画付きグリコ自動販売機(複製)は、1931(昭和6)年に10銭を入れると、音楽と映画が流れ「グリコ」とおつり2銭が出てくるという画期的な仕掛けで東京を中心に100台設置され行列ができるほど人気を呼びました。



History of the Glico toys

子どもたちのココロとカラダの健康を願って、お菓子と豆玩具(おもちゃ)をひとつの箱に「子どもにとって、食べることで遊ぶことは二大天職」と考えた創業者・江崎利一は、発売初期に入れた絵カードをヒントに栄養菓子に豆玩具を入れて、ココロとカラダの健康を一つの箱に収めることを思いつきました。豆玩具は今でも親しまれ続けています。ここには、創業時から現在までの約4,000点を展示しています。

